

主要事業個別シート(第2次実施計画/H27・28年度)

ver.1.01

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	建設部
	19086	都市計画道路整備事業(和賀白川線)	室名	道路整備室
	基本施策の大綱	01:快適な都市空間の創造	会計	01:一般会計
	基本施策	09:道路網の整備	款	08:土木費
	施策の方向	01:幹線道路の整備	項目	02:道路橋梁費
戦略プロジェクト	-	項目	03:道路新設改良費	
事業予定期間	H 17 ~ H 31 年度	主な根拠法令要綱等	道路法、道路構造令	

② 目的・概要	対象	市民及び来訪者
	目的	当路線は県道鈴鹿関線、国道306号、市道亀田川合線、市道亀田小川線で結節された市内環状線として位置づけられており、環状線は本市における産業発展と市民生活の根幹を担う重要な道路ネットワークであり、早期の完成が待ち望まれている。国道1号から県道鈴鹿関線の区間については平成25年度までに開通しており、国道1号から北側部分と亀田小川線を含めた区間を整備するものである。
概要	(北区間) 幅員12m(2車線、両側歩道) 延長L=800m	

③ 年度別事業計画	平成27年度		平成28年度		
	路線測量、詳細設計		用地測量 和賀白川線 A=6.0ha 亀田小川線 A=1.0ha		
計画額	事業費	11,500千円		18,000千円	
	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債	10,900千円		17,100千円	
	その他				
予算額	一般財源	600千円		900千円	
	事業費	7,300千円		8,400千円	
	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債	6,900千円		7,900千円	
その他					
一般財源	400千円			500千円	
期間内総事業費(H27・H28)①	29,500千円	期間外事業費(H29以降)②	485,000千円	総事業費(①+②)	514,500千円

④ 指標	名称	活動	計画値	平成27年度	平成28年度	(参考・平成29年度)
				①	整備進捗率(北区間) 実施済み事業費/総事業費	
	補足		単位	%	%	%
②	名称		計画値			
	補足		単位			
③	名称		計画値			
	補足		単位			
④	名称		計画値			
	補足		単位			

事務事業評価シート

H28(主要事業)

①基本事項	計画コード	事業名	部名	建設部
	19086	都市計画道路整備事業(和賀白川線)	室名	道路整備室
	基本施策の大綱	01:快適な都市空間の創造	財	会計 01:一般会計
	基本施策	09:道路網の整備	務	款 08:土木費
施策の方向	01:幹線道路の整備	科	項 02:道路橋梁費	
戦略プロジェクト	-	目	目 03:道路新設改良費	

②目的・概要	対象	市民及び来訪者
	目的	当路線は県道鈴鹿関線、国道306号、市道亀田川合線、市道亀田小川線で結節された市内環状線として位置づけられており、環状線は本市における産業発展と市民生活の根幹を担う重要な道路ネットワークであり、早期の完成が待ち望まれている。国道1号から県道鈴鹿関線の区間については平成25年度までに開通しており、国道1号から北側部分と亀田小川線を含めた区間を整備するものである。
概要	(北区間) ・幅員12m(2車線、両側歩道) 延長L=800m	

		27年度	28年度
①	名称	整備進捗率(北区間)	計画値 4
	補足	実施済み事業費/総事業費	実績値 1.4
			単位 %
②	名称		計画値
	補足		実績値
			単位
③	名称		計画値
	補足		実績値
			単位
④	名称		計画値
	補足		実績値
			単位

年度計画				年度実績					
用地測量 和賀白川線 A=6.0ha 亀田小川線 A=1.0ha				平成27年度繰越事業であった和賀白川線L=800m 住山11号線L=220mの路線測量・道路詳細設計完成 用地測量(H29年度へ繰越)					
④事業の計画・実績	事業費	計画額	予算額	決算額	人件費	総人件費 ①	293	平均給与額×③	
		事業費	18,000	14,100		5,612	一般職員人件費 ②		293
		国庫支出金		0			所要人員 ③		0.04
		県支出金		0			臨時職員人件費 ④		0
		地方債	10,900	7,900		5,300	受益者負担額 ⑤		0
		その他		0			受益者負担率		0.0% ⑤ / ⑥
		一般財源	7,100	6,200		312			
		再	翌年度への繰越額			8,400			
		掲	前年度からの繰越額			5,700			
			総人件費			①	293		
	総コスト		⑥	5,905					

⑤事業の評価	【事業の成果】	地域の合意形成を図りながら進めていた道路詳細設計(繰越)も完成した。平成28年度用地測量を発注したが、当事業も繰越しており、現在、公共地については境界復元作業、個人所有地については、地権者との合意形成を図りながら立会を進めていく。	総合判定 B まずまず進んだ
	【反省点・課題】	道路詳細設計については、地権者への合意形成・各関係機関等との調整に時間を要した。用地測量についても、時間をかけ地権者への丁寧な説明を行い進めていく。今後は、道路改良費が社会資本整備総合交付金の国の補助事業で進めていく方針であるが、年々補助率の低下が出ており、完成までには相当な時間を要する。	
	【改善の方向性】	関係機関との協議・調整や地元説明会、買収地権者への丁寧な説明を行い、事業の進捗を図っていく。財源の確保については、国の制度改正等、情報をいち早く収集し、国への要望強化に努めていく。	
事業目的の妥当性: 適切		有効性: 適切	最終評価確認者: 道路整備室長 服部 政徳